

## エビヤドリムシ科の1種

岡山県：留意

等脚目

*Megacepon choprai* George

環境省：該当なし

エビヤドリムシ科

## 選定理由

前掲のオカヤマカニヤドリムシと同時に記録された種であり、特に岡山県として記録しておく必要がある。

## 存続を脅かす要因

河川開発（護岸工事）、用水路改修、川相変化、海岸開発（護岸工事、干拓、埋立）、水質汚濁、産地局限

## 分布状況

岡山市旭川河口の汽水域上部から記録されている。  
タイプ産地はインドの「Adyar River, near Madras」であり、その後、タイと香港からも産出が報告されている。

## 生息情報

原記載では、ベンケイガニ科の *Sesarma tetragonum* (Fabricius) に寄生していたとされる。その後オカヤマカニヤドリムシとともに、旭川産のクロベンケイガニに寄生していたことが報告された。しかし2001年にオカヤマカニヤドリムシが再発見された際の調査では、本種は見出されず、以後現在に至るまで確認されていない。

文献番号 72, 96, 132

(福田 宏)



## ヌマエビ

岡山県：留意

十脚目

*Paratya compressa compressa* (de Haan)

環境省：該当なし

ヌマエビ科

## 選定理由

抱卵数と卵サイズに地理変異があり、地域個体群間での遺伝的分化が進んでいる。また農薬に対する感受性が高いと考えられ、個体数が全国的に減少している。

## 存続を脅かす要因

池沼開発、用水路改修、水質汚濁（土砂流入）、農薬汚染

## 分布状況

本州、四国、九州、沖縄に分布。岡山県では中部および南部の河川で確認の記録がある。

## 生息情報

成体は低地の淡水（池、川）に生息し、ゾエアは海で生活するため汽水にも生息する。雄の体長20mm、雌の体長23mmで、体色は緑色～緑褐色。眼上刺をもつが、鰓前刺、肝上刺はない。額角は細長く、上縁に14～34歯の細かい歯がある。琵琶湖では産卵期は5～8月。琵琶湖では、全域の沿岸部の沈水植物（水草）帯で採集されている。

## 特記事項

別亜種のヌカエビは農薬に対する感受性が高く、農薬のバイオアッセイに用いられており、本種も同様に農薬に対する感受性が高いと考えられている。

文献番号 24, 95, 105, 106, 137, 155

(森 生枝)

